

『水害に負けない安心の暮らし』の特長

近年、短時間豪雨の発生の増加や台風の大型化等により、浸水被害が頻発しており、既に地球温暖化の影響が顕在化しているとみられます。今後さらに気候変動による水災害の頻発化・激甚化が予測されています。また現在、市町村においても、水防法改正に伴う想定浸水区域・ハザードマップの空白域の解消が進められており、事前の防災対策により、被害が軽減でき、人命を守り、災害後の復旧や被災者の生活再建等に係る負担、社会経済活動への影響などを軽減できることから、後手に回ることを避け、着実に対策を進める必要があると考えます。

水害からすぐに復旧し、地域と共々生きるための「3つのコンセプト」

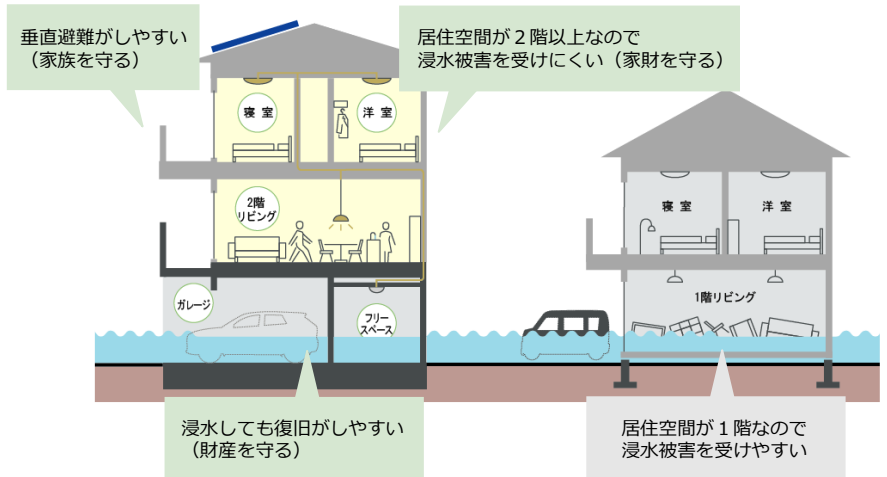
お住まいの土地が浸水想定区域であっても、住み慣れた街、生まれ育った土地から動きたくない、住み続けたい方にとっては、いつ起きてもおかしくない浸水に対して、日常の中で災害を常に意識できる環境づくりが大切です。さらに家族形態として核家族世帯や単身世帯が多い中、身近に頼れる近隣が少ないということもあり、これからの住まいは、「家族の絆」と「人・地域との交流による絆」が欠かせず、これらがレジリエンス住宅を通じて実現できるものと考えます。



1階をRC（鉄筋コンクリート）造、上階を軽量鉄骨造のハイブリッド構成。水害だけでなく、重厚感のある意匠、耐震性、高品質であることから、永きに渡って家族と財産を守ります。



1階がRC造
上階が軽量鉄骨造のハイブリッド
重厚感のある外観を演出します



① 備える

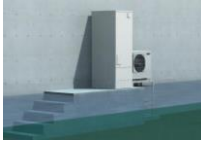
復旧が早い

万が一の浸水でも、1階をRC造の打ちっ放し仕上げとすることで、浸水被害を抑え、木造や鉄骨造と比較して早期の復旧が可能だけでなく、災害廃棄物の発生も抑えて環境にも貢献。日常においては、RC造の遮音性や頑丈な特長を活かし、サウンドルームやガレージとして快適にお使いいただけます。

災害時
Emergency



浸水を想定した設計



浸水被害を抑える工夫

災害後
After



早期復旧が可能



災害廃棄物を削減

日常
Daily



遮音性を活かしたサウンドルーム活用



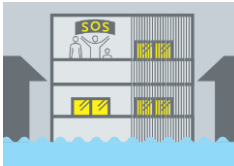
ガレージやアウトドア用品のスペースとして活躍

② 向き合う

災害に正面から向き合う

浸水の可能性が低い2階以上の部分に居住空間を集約することで、災害時の垂直避難や、災害後も電気などが普段通り使える設計とすることで、子どもやペットなど避難が難しい方の在宅避難を支えます。日常においても、1階よりも陽当たりがよく、近隣の視線も気にせず過ごすことができます。

災害時
Emergency



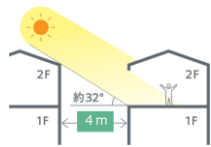
— 自助 —
避難が難しい方でも垂直避難が容易

災害後
After



停電・断水・食糧備蓄の対策

日常
Daily



上階の居住空間は陽当たりが良く
目線が気になりにくい

③ 活かす

人・地域との交流

1階のRC造の空間を中心に、ご自身の趣味を嗜んだり、スタジオやギャラリー、店舗など人が集まるコミュニティ空間として地域にもてなし、交流を盛んにすることで、これらが災害時における「共助」への取り組みにも繋がり、地域の防災拠点として人・地域を支えます。

災害時
Emergency



— 共助 —
安心できる一時的な避難所や
地域の防災拠点にも

災害後
After



1階RC部分を通じて炊き出し
などの地域貢献も可能

日常
Daily



1階を教室や店舗にしたり、
上階への屋外階段設置など
集える空間づくりも可能です

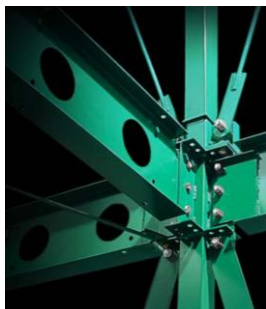
建物の基本性能はそのまま

その他の自然災害において、地震に対しては揺れに強い高耐震構造で備え、停電時やエネルギー不安・温暖化などの気候変動に対しては高断熱で省エネな住宅性能を基本とし、心身のみならず経済的な不安も軽減できる当社建物の高い基本性能はそのまま保っているのです。

高耐震で安心

耐震性

いつ起きてもおかしくない大地震に対し、強く耐久性のある軽量鉄骨+RC造でご家族の生活と財産を守ります。



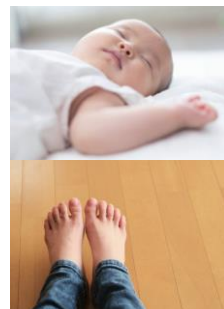
高断熱で快適

快適性

高い断熱性能で、冷暖房を過ぎることなく、夏も冬も気温に左右されない快適な室内温度を保ちます。

経済性

省エネ設備により高い経済性を維持でき、今後も予想される電気代の高騰にも備えます。



(参考)

近年の短時間豪雨の発生増加や台風の大規模化等による浸水被害が頻発。このまま温暖化が進めば降雨量は約1.1倍になり、洪水発生頻度は約2倍になることも予想されるため、想定浸水区域・ハザードマップの見直しが行われ、これまで浸水区域ではない地域も区域内に。特に浸水被害の大半を占める内水氾濫による被害の増加が懸念されています。

住宅の浸水被害件数

浸水被害件数は増加しており、床上浸水対策が欠かせません。



国土交通省「水害被害統計調査」より

発生頻度は高まる一方

いつ起きてもおかしくない事態に備えて対策することが大切です。



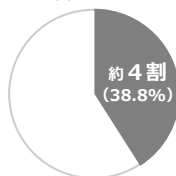
気候変動に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化

気候変動シナリオ	降雨量	流量	洪水発生頻度
2℃上昇時	約1.1倍	約1.2倍	約2倍
4℃上昇時	約1.3倍	約1.4倍	約4倍

国土交通省R5年「地下空間を活用した治水対策」より

浸水区域内に住まないは不可能

人口集中地区の約4割は浸水地域水害と共に生きる心構えが大切です。



約4割
(38.8%) 人口集中地区に占める
浸水想定地域の割合

国立研究開発法人 建築研究所
「第18回専門紙記者懇談会開催 資料(2020年)」より

浸水想定エリアは最新のもので確認することが大切

住まいは長く住むもの。水害対策も一過性のものではなく長きに渡って安心できるものを選択することが大切。特に内水氾濫による事前の防災対策が重要。



国土交通省「重ねるハザードマップ」より

※本商品は(一社)住宅生産団体連合会「住宅における浸水対策の設計の手引き」に基づく浸水レベル2(浸水想定区分2:浸水深さ1.5m)への対策を設計目標として想定される災害リスクを低減する提案であり、すべての河川氾濫に対して当社がお客様の生命・財産を保障するものではありません。緊急時の避難誘導がある場合は、その指示に従って行動してください。